

教室に秩序があって、
安心して過ごせる

互いの存在を認め、尊重し合える
温かい人間関係

富雄中学校 生徒育成の重点

ルールとリレーション

2014. 4. 21.

| 学年 | 重点目標 | 取り組み方 | 留意点 | ポイント |
|--|-------------------|--|-----|-------------------------------------|
| 1年 みんなの中の私 ころもからだも イキイキ <自己を見つめて> | 基本的な生活習慣を確立 | 『私の健康日記』などを活用して自分の生活を見直す。 顔を見て挨拶をする習慣をつける。 遅刻・チャイムでの行動を徹底する。 提出物などの期限を守らせる。 | | 時間を守ることを徹底 |
| | 集団行動のルールの意味を理解させる | ゲームやグループワークを通して、ルールを守ることの意味や大切さを理解させる。 授業や学校生活のルールの遵守を徹底する。 | | ルールは自分たちのためであって、ルールを守ることが自分を守ることになる |
| | 受容感・自己肯定感の育成 | ライフスキルアップなどのプログラムやゲームを取り入れるなどして、グループ活動・グループでの話し合いの時間をとるようにする。 自分の意見を言う、相手の思いを聞く。 | | 体験の共有 ⇒感情の共有 シェアリングを大切に |
| | 学力補充 | 中学生としての学習習慣を形成させるとともに、放課後学習などを通じて基礎学力の補充に努める。 | | 教科担当の指導と、スクールボランティアとの連携 |

Step up

| | | | | |
|---|----------------------------|--|--|--|
| 2年 チャレンジする私 ころもからだも スクスク <周りを見つめて> | 健康的な生活習慣の自立 | 『私の健康日記』などを活用して自分の生活を見直す。 起床・就寝・挨拶などを自分の意志でやっていく。 | | 自分で生活習慣をコントロールする |
| | 自己効力感の育成 人の役に立っているという実感 | 委員会や係のしごとを積極的にさせる。 個人的にほめる。「やるじゃん!」期待する。「次も頼むよ」自分は人の役に立つ存在だと実感することで、自己効力感を育てる。 | | Small Step to Go 小刻みにほめることと期待すること |
| | リーダーの育成 自主的な活動の推進 | 学年委員会の活動を中心に、リーダーを組織し、取り組んだ達成感を感じさせる。 自主的な活動はどんどんさせてやる。 職場体験を含め、教師側で全て準備するのではなく、できるだけ生徒に任せる。やり方や段取りは指導するが、活動は生徒がやっていくのを待つ、見守る。 | | 生徒がすることを待つ 失敗した時に叱らない 失敗した時こそ教師の出番 |
| | 学習意欲の向上 | わかりやすい授業の工夫と放課後学習で達成感を育て、学習意欲を高める。 | | 教科担当の指導と、スクールボランティアとの連携 |

Step up

| | | | | |
|---|-------------------------------------|---|--|--|
| 3年 道を切り開ける私 ころもからだも 強く優しく <社会・未来を見つめて> | 健康的な生活習慣の自立を強化する | 『私の健康日記』などを活用して自分の生活を見直す。 睡眠時間・食事・挨拶・学習などを自分で管理する。 | | 自分で生活習慣をコントロールする |
| | リーダーシップを発揮する | 修学旅行・体育大会などの行事や部活を中心に、リーダーシップに期待しながら、計画や実行を生徒に任せていく。 できるだけ意欲を認め、ほめながら活動させる。 | | 教師も生徒と一緒に なって活動ができること、 生徒の意欲も高まる |
| | 人生観や価値観を考え、 将来の生活設計と進路 選択に生かす | 社会の仕組みを知り、色々な人の生き方に触れることで人生観や価値観を確立する。 自分の状況(家庭の経済状況・親の願いなど)を考え、進路に対して責任を持って意志決定をする。 | | キャリア教育 幅広い視野で世の中 や将来を見つめる 責任と選択 |
| | 学習意欲の向上 | 3年生として積極的に授業に取り組ませる。 放課後学習などの取組で進路選択への希望と意欲を持たせる。 | | 教科担当の指導と、スクールボランティアとの連携 |

3年間でどんな生徒を育成するか、職員全体で共通認識する。
各学年や到達目標を決め、その目標をクリアしながら次の学年へと進んでいく。
授業や行事など、学校での全ての学習や活動の中で、この目標を意識した計画や取り組みをする。
多方面からのアプローチで、生徒にこの目標が浸透するように取り組む。
教師側が常にこの目標を意識して生徒の指導に当たる。教師側にねらいが浸透することが大切。